



春宮の大鳥居
 春宮の大鳥居を作るときこれを石材にしようとして、ノミを入ると血が流れたので石工たちは「霊の宿る石と恐れ何れ陀婆を祀る」万治3年(1661)11月1日と刻されている

中山道
 江戸から京都 132里10町8間
 京都から 77里3町(303km)
 江戸から 55里35町(217km)

大社のお祭り
御柱祭 この年は結婚相はいいない、寅は千里行の狸帽子、申(3)は去るに通い縁起良しと訛れたか、実は経典の如く一切やめ、申に奉仕せよ家の造営、女宮姻、用材(木料)他国へ出すこと、違反すると神罰を蒙ると言われました。又葬式も神とされ飯埋葬が別のところに密葬は、今はお祭りとは別です。

遷座祭 二月廿日申は春宮に移り、農耕を見物おかし。春宮田には閑静なところ「寂しいこと喜ばれず」(お初りかおとあはれか?)の祭りとお祭りなのと昔の人は語り伝えたお祭りです。

お舟祭り 八月一日は春宮から秋宮への遷座祭です。祭に祭舟が引き出されるので「お舟祭り」と呼ばれます。賑やかな(温泉)秋宮へのお初りも喜ばれ、又農作物の収穫に祝い盛大なお祭りが行われます。

矢除石(伝説)
 矢除けの加ふる石

今井邦子文学館
 江戸時代、茶屋「松屋」の跡。昭和の頃短歌結社「明香社」「アララギ」同人今井邦子の実家。今井邦子の文学の足跡を展示。

下諏訪宿 名湯 三湯
糸湯 神湯、女神(湯玉伝説)
 上社にお住いの女神が下社へお初りの際、お化粧用の湯を糸に濡し「湯玉」にしてこの地に置かれました。すると糸に湯が染みこみ、江戸時代、街道の発達に天下の名湯に成りました。(信州 諏訪の湯とて)

見湯 子授けの湯
 小湯とも呼ばれた(小い湯場)とても温まる子宮に恵まれる。気を環らし血を補う

旦過の湯 鎌倉時代、慈雲寺(禪寺)に由来、修業僧の旦過寮の浴場(野天)、小倉眠疾を治す、傷や吹出物に投ぐ

下諏訪宿番屋跡
金兼地蔵
 温泉金兼中のお地蔵様。知泉武部の伝説がある、合から4年余りもの昔の話です。

下諏訪宿
 中山道と甲州道中の合流する宿場町。豊かな温泉が湧き、全国に一万余の末裔を持つ諏訪大社を中心とした神宮系関係の門前であり、街道随一の賑いを見せたり、又下諏訪宿に貫く本流は中山道ですが他に「日光御幣便街道」「茶壺道中」「姫街道」なども通っていました。文永元年(1081)皇女知子様降嫁の際は大変な長途でした。

鎌倉街道
 「鎌倉」に備えた、軍事道路の残、鎌倉時代の史話を中心に伝説や物語、その昔アキラのいた「ロマンの道」

青塚古墳
 前方後円墳、七世紀末か八世紀のせめぎあひの築造と言われる。諏訪地方最古のもの、誰れの古墳か不明、この地の最も偉いと思れる。

水運儀象堂
 世界に一つしかない、中国、北宋時代「水運儀象台」復元展示

下社七不思議
根入根 大社の宿神木の一つ(春宮神木)夜三つ時(前二時~二時30分)板に三つ時で眠る、軒に当たる時は、いびきか聞える。

湯口清濁 糸湯は神湯(女神湯)心も汚れる者が入ると湯口が濁る

御神渡 上社の神建御方尊が下社の女神、八坂御神のもとに通過した

御作田の早苗 六月末植えの稲が八月一日に収穫できた。

筒粥の神事 一月十四日の暮から十五日早朝に、お舟の筒粥と、お舟の筒粥、お舟の筒粥

浮島 どの川にも流れない。

練屋の三光 御船の最後は太陽、月、星を同時に拝むことができた。

本陣
 街道(中山道)随一の規模と誇る。身の高い大石、公卿、姫君の泊所。庭園は名園(中山道随一)

甲州道中終末、碑
 甲州道中、江戸から下諏訪、約209km、53里11町(約209km)

下諏訪民俗資料館
下諏訪町観光振興局 観光協会

高札場
 お舟の法度(法令)や犯罪人の罪状など記し、人通りの多い場所に掲示した板札

下諏訪宿番屋跡
高札場
女将とめぐる

下諏訪歴史さんぽ